

アクリル酸メチル

メタクリル酸メチル

(3)

⑨ 日本国特許庁(JP)

⑩ 特許出願公告

⑫ 特許公報(B2)

平5-19536

⑮ Int. Cl.

識別記号

庁内整理番号

⑭ 公告 平成5年(1993)3月17日

C 07 C 69/54

Z

8018-4H

B 01 J 23/40

X

8017-4G

C 07 B 59/00

7419-4H

C 07 C 67/30

8018-4H

// C 07 B 61/00

3 0 0

発明の数 1 (全2頁)

⑬ 発明の名称 重水素化アクリル酸メチルまたは重水素化メタクリル酸メチルの製造法

⑯ 特 願 昭59-270319

⑰ 公 開 昭61-148141

⑱ 出 願 昭59(1984)12月21日

⑲ 昭61(1986)7月5日

⑳ 発 明 者 加 藤 正 明 広島県大竹市御幸町20-1 三菱レイヨン株式会社内
㉑ 発 明 者 宇 野 哲 也 広島県大竹市御幸町20-1 三菱レイヨン株式会社内
㉒ 発 明 者 小 林 雅 夫 広島県大竹市御幸町20-1 三菱レイヨン株式会社内
㉓ 発 明 者 大 須 賀 直 人 広島県大竹市御幸町20-1 三菱レイヨン株式会社内
㉔ 出 願 人 三菱レイヨン株式会社 東京都中央区京橋2丁目3番19号
㉕ 審 査 官 唐 木 以 知 良

1

2

⑳ 特許請求の範囲

1. アクリル酸メチルまたはメタクリル酸メチル中の水素を触媒の存在下直接重水素交換することを特徴とする重水素化アクリル酸メチルまたは重水素化メタクリル酸メチルの製造方法。

2. 触媒として白金族元素または化合物を用いる特許請求の範囲第1項記載の製造方法。

発明の詳細な説明

〔産業上の利用分野〕

本発明は重水素化アクリル酸メチルまたは重水素化メタクリル酸メチルの製造方法に関するものである。

〔従来の技術〕

従来、重水素化メタクリル酸メチルを製造する方法に関しては重水素化アセトンシアンヒドリンを経由して製造する方法がジャーナル・オブ・ポリマーサイエンス誌62, 95(1962)に提案されている。即ち、重水素化アセトンと青酸より重水素化アセトンシアンヒドリンを製造し、これを硫酸で処理してメタクリルアミドの硫酸塩を生成せしめ、これを重水素化メタノールと反応させて重水素化メタクリル酸メチルを製造する方法である。

〔発明が解決しようとする問題点〕

しかし、従来の製造方法では重水素化アセトン

および重水素化メタノールなど重水素化した原料を使用する上、多くの反応工程を経るため経済的に充分なものとは言えず、より工程の少ない改良法が望まれていた。

5 〔問題点を解決するための手段〕

本発明者らは重水素化メタクリル酸メチルの合理的な製造法を鋭意研究した結果、メタクリル酸メチル中の水素を直接重水素と交換する新規な製造法を見出し、本発明を完成するに至つたのである。

本発明は触媒の存在下、アクリル酸メチルまたはメタクリル酸メチル中の水素を直接重水素交換することを特徴とする重水素化アクリル酸メチルまたは重水素化メタクリル酸メチルの製造方法である。

本発明によるアクリル酸メチルまたはメタクリル酸メチルの水素-重水素交換反応は触媒の存在下、室温ないし300℃で行われるが、反応速度、副反応および重合の抑制の面から50～150℃で行うことが望ましい。

重水素源としては重水または重水および重水素ガスをを用いることができる。又、アクリル酸メチルまたはメタクリル酸メチルに対して少なくとも化学量論以上の重水素が反応系に存在することが

3

必要である。

触媒としては第8族金属から選ばれる金属あるいはその化合物が有効である。特に白金あるいはパラジウムまたはその化合物が好ましい。また、必要に応じて適当な担体、例えばアルミナ、シリカ、シリカーアルミナ、ケイソウエ、活性炭などに担持させて使用することもできる。

反応は気相、液相いずれでもよく、また加圧下で行うこともできる。

反応中の重合を抑制するため適当な重合防止剤、例えばフェノチアジン、ハイドロキノン等を必要に応じて添加することができる。また、反応*

重水素化率

$$= \frac{\text{生成した重水素化アクリル酸メチルまたは重水素化メタクリル酸メチルの重水素原子数}}{\text{仕込アクリル酸メチルまたはメタクリル酸メチルの水素原子数}} \times 100$$

実施例 1

メタクリル酸メチル10部、重水48部、塩化白金酸カリウム0.5部及び重合防止剤として微量のハイドロキノンを小型オートクレーブ中で攪拌下、120℃で16時間反応した。冷却後、反応物を分析したところ、重水素化率58%の重水素化メタクリル酸メチルが得られた。

実施例 2

メタクリル酸メチル10部をアクリル酸メチル8.6部に、反応温度120℃を90℃に替え、その他は実施例1と同様にした。重水素化率42%の重水素化アクリル酸メチルが得られた。

実施例 3

メタクリル酸メチル25部、重水40部、塩化白金酸1.0部及び重合防止剤としてハイドロキノンを、冷却器付の内容積100mlのフラスコに入れ、攪拌しながら85℃で65時間反応した。

その結果、重水素化率41%の重水素化メタクリル酸メチルが得られた。

*液中に少量の酸素を共存させることによつて重合を抑制することもできる。

本発明の方法を実施するに当つては、必要によつては本反応の温度で安定な溶媒、例えばジメチルホルムアミドを用いることもできる。

以下に実施例をあげて本発明を説明する。実施例は説明のためであつて、それに限定されるものではない。

以下の記載においては部は重量部を表わし、分析はガスクロマトグラフおよび質量分析装置によつた。重水素化率は以下のように定義される。

実施例 4～6

実施例1において塩化白金酸カリウム0.5部を塩化ロジウム3.4部、活性炭に1%担持したPd触媒10部またはジクロロートリス(トリフェニルホスフィン)ルテニウム0.5部に替え、更に反応温度、時間を表1のように替え、その他は実施例1と同様にして反応した。その結果表1が得られた。

表 1

実施例	触媒	反応温度	時間	重水素化率
4	塩化ロジウム	100℃	40hrs	45%
5	Pd-活性炭	90	62	30
6	ジクロロートリス(トリフェニルホスフィン)ルテニウム	95	24	15

35